



桃五だより

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>



No.603

(9月号)

2021.9.1

おおらかに、信じて、育てる

校長 川田 忠

学校の授業では、付箋紙がよく使われます。登場人物の気持ちの変化を書き出したり、子供たちの様々な意見を付箋紙に書いて、同じ考え、違う考えを仲間分けしたりする場面などで活用しています。糊がついているため、付けたり剥がしたりできる大変便利な物です。

この付箋紙の誕生は、アメリカの科学者の失敗から始まっています。航空機の製造に使える強力な接着剤の開発を目指していたところ、逆にとても弱い接着剤を創り出してしまった。それを別の科学者が本の葉への応用を思い付き、製品化されました。それが全世界に広がり、学校だけでなく日常生活の様々な場面で活用されるようになりました。

失敗からの発明。この手の話は、世の中にたくさんあります。ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智先生は、「成功した人は失敗を言わない。でも、人より倍も3倍も失敗している」と語っています。

今夏に開催されたオリンピックでは、アスリートたちが真剣に自分を表現し競う、感動的な姿が見られました。その中には、懸命に演じたけれど意に反してうまくいかない場面や、必死に戦ったけれど結果が出ないということが少なからずありました。

こういった失敗やうまくいかないことが当たり前にあるのが世の中なのでしょう。そして、失敗を通して次に向かうエネルギーを得て、いつかは成果を導き出そうとする。人間社会の強さは、へこたれずに何度でも立ち向かっている一人一人の生き方

が創り出しているように思えます。

しかし、最近、過度に失敗を恐れる風潮があるように感じています。子供たちの様子を見ても、間違えてはいけない、常に正解だけを求めるという意識の大きい子供たちがいるのを感じます。

周囲の目を気にしすぎているのでしょうか。他人の評価に過敏になっているのでしょうか。学校は、間違うところですよ。失敗やミスをしてもいい場所であるはずですよ。生まれて10年経つか経たないかの未熟な子供たちが、できない、わからない、間違えてしまう、失敗してしまうことも経験し、そこから学んでいく場所が学校なのだと考えます。

私たち大人は、失敗をする子供たちをおおらかに受け止めたいと思います。失敗から学ぶようにかかわり、今はできなくてもいつかはできるようになるし、今度は成功すると、信じてあげたいと思います。そして、学校に携わる者も保護者も、子供たちにとって最も身近な応援者という存在でありたいと考えます。

二学期が始まりました。新型コロナウイルス感染症の影響は、まだまだ終息しない模様です。思ったようにいかない、うまくことが運ばない時間もあるでしょう。そんな時は、付箋紙のように、一度貼ってダメなら貼りかえて、より楽しい学校生活を実現していきたいと思います。今学期も、ご支援ご協力をお願いいたします。

9月の生活指導目標

もも五のこどものやくそくを守ろう

二学期が始まり、桃五小に子供たちの元気な声とともに、学校の規則正しい生活が戻ってきました。夏の疲れが出てきたり、生活リズムが乱れたりして体調を崩しやすくなる時期です。夏に培った力を発揮し、充実した学校生活を送るために、早寝早起きを心がけ、時間や時刻を守って生活していきましょう。